



『 純白の、なまえ。』



(ちよこ & れいとシリーズ  
で)

霧樹 里守  
(きりぎ・り  
す)





# 目次

( 2020年08月 ) . . . . .	1
『 純白の、なまえ。』 . . . . .	1
『 純白の、なまえ。』 (投稿用) . . . . .	14
(2019年12月8日) (そのまま出しちゃえ♪) . . . . .	27
(2019年12月8日) . . . . .	32



( 2020年08月 )

忘れてました。

すでにこちらに移転して【公開済み】作品でございます。

<https://novel.daysneo.com/works/cc4b61ce4b99d62a0d80f723f52a4b0b.html>

よしなに。

# 『 純白の、なまえ。』

『 純白の、なまえ。』(1)

霧樹里守(きりぎ・りす) 2019年12月08日

☆

なまえは、うんと、特別でなきゃ！  
だって！ 特別な、猫なんだから！

もちろん美宇(みう)は、そう考えた。  
だって本当の本当に、待ちに待って来た、

...来てくれた...

ネコなのだ！

☆

そのネコは、カゴから出るなり、

「...み～う！」

...と、鳴いた！

美宇を呼んでくれた！

「...ね？ だからこのコにしたのよ～。ミウ、って鳴くんですもの♡」  
撫で撫でしながら、お母さんがそのコを美宇に、ハイとさしだした。

☆

「みーう！」と鳴いて、よじりよじりと、小さなツメと手足で...

誕生日の、特別な、  
美宇のピンクの新品のカーディガンを、少しほつれさせてしまいながら...

よじよじと、肩までがんばって昇ってきて...  
座って！

美宇の耳をくんくんして、カジカジして。  
それからあくびをしながら...

「みーう！」と。

もう一度、鳴いた。

☆

「...み〜う！」

美宇はもう本当に一瞬で、夢中になった。

誕生日のネコだ！

特別な、美宇の...  
美宇だけの、ネコなのだ！

☆

そのネコは、真っ白だった。

小さくて、本当にまだ小さくて、  
でもツメもキバもちゃんと小さいのが生えそろっていて。

まるでオモチャのミニチュアみたいで、  
でも本当に生きてて、

動いて、  
食べて、

...鳴く！

「み〜う！」

☆

美宇が主役のはずの誕生日パーティーは、もうすっかりネコが主役で大騒ぎになってしまったが、もうそんなことは、どうでも良かった。

美宇は大喜びだった。  
妹ができたみたいだった。  
うんと素適な名前を、考えなくちゃ...

だって、こんなにすてきな、特別な...

特別な、ネコなんだから！

☆

ところが。

次の朝、気がつくとき...  
お母さんが。

勝手に「シロちゃん、ごあんよ〜♡」とか...、  
呼んでる！

「シロじゃないから！」

「あら？ じゃあ名前、どうするの？」

「いま考え中！」

☆

気がついたら、お父さんが。

「おー。ホワイトたん。来たのか！」

「ホワイト違うから！」

「いいじゃないかー。白いんだから。」

「だめ！」

☆

さらには、弟が。

「白いんだから、ユキだよね？」

「だめ！」

だめだめ！ 全然だめ！

そんな、平凡な、名前ッ！

☆

おばあちゃん案。

「スノウちゃん！」

「ダメ！」

おじいちゃん案。

「うーん。じゃあ、ミルクちゃん。」

「もっとダメ！」

美宇は、ちょっと、泣きそうになってきた...

もしかして、美宇の名前も、こんなふうになんか...  
安直〜に。  
決められちゃったのかしら...??

☆

とにかく、なまえは... 特別！

特別な... 愛情の... こもった...

一生懸命、選んだ...

一生ものの、大事な...

特別な、名前でなくちゃ！

☆

だけど。

美宇のコダワリは...

わかって、もらえなかった。

☆

「あら、だってもう一週間よ？  
いつまで名無しのオニギリちゃんなの〜？

可哀想に！」

伯母さんにまで言われた！

「なによそのオニギリって！？」

「あらだって白くて丸くて美味しそう。

だから？」

「...だめ！絶対だめ！変な名前と呼ばないでッ！！！！！」

美宇は、叫んだ。

もう、涙目で、大絶叫した。

「おばさんなんか、嫌いッ！帰って！もう来ないでえッ！！！！！！！」

☆

泣きながら叩いて、殴って蹴とばして、

ものすごい勢いで哭いて...

追い返してしまった。

さすがに夜、お父さんに、怒られた。

「罰として、ごはん抜き。」

「...いいもん...勝手にオニギリにされるより、マシだもん...」

泣きながら、名前のまだ決まらない特別な子猫を...

抱きしめて、眠った。

☆

クラスの女子案。

シロ？

ユキ？

だめだってば。

ホワイト？

だめだめ！

スノウ？

ミルク？

簡単すぎるでしょ！

じゃあねえ...

ユリちゃん！

リリーちゃん？

スズランちゃん！

...う～ん...

シュガーは？

サトウは？

カクザトウは？

...だめーっ！

白雪姫は...？

じゃあ、エルザ！

アナ！

...ち～が～う～ッ！！！！！！（涙目で絶叫。）

☆

...だめもとで...

クラスの男子案。

白飯？  
オニギリ？  
塩！

...酷いッ！

白いんだろ？ 食パン！  
白パン！  
白パンツ！

やめて！

パンツ！パンツ！それいい！

おまえんちのネコ、ば～ん～つ～！

(往復平手打ち。+男子五人を相手に大乱闘。)

☆

誰がなんと言っても、美宇は抵抗した。

勝手な名前と呼んでるやつがいれば、跳んで行ってキックした。

「美宇ちゃんっ！いつからそんな乱暴なコになったのッ？」  
お母さんが怒った。

だって言っても聞いてくれないんだもん。  
実力行使するしかないもん！

「もう～。こんなことになるなら、シロちゃん、貰って来るんじゃないわ...??」  
「酷いッ！」

美宇は、ハンストを、始めた。  
家で、ご飯を、食べるのやめた。

いいもん。

お昼の給食だけだって。

死なないもん...ッ！

☆

美宇は猫をぎゅっどぎゅっど！  
(潰さないように！ 大事に！ そっと！)

抱きしめた。

特別な、美宇の、誕生日の... 猫なんだから！

うんと、特別な、なまえを...

あたしが！

考えて...

あげなくちゃ！

☆

...だけど哀しいかな、どれだけ考えても、辞書を引いても、  
百科事典をめくりたおしても、  
図書館に通っても...

ぴったりの名前は、美宇にも、浮かんでこないのだった...

☆

おなかが、空いた...

ハンスト三日目にして、美宇は、絶望的な、気持ちになった...

☆

家庭科実習だった。

地域の本当のお店の人たちとかが、実習の先生に来てくれる、回だった。  
黒木ケーキ店の番だった。

店長のレイトさんと、奥さんで、ドレス屋さんの、チョコさんが。  
にこにこして、お揃いのエプロンつけて。  
調理室に、来てくれた。

「今日は～。おうちで簡単に、市販のパンで作れる～、  
『なんちゃってエクレアもどき♡』の作り方を、レイト先生から習いまーす♡」

チョコさんが、ハート付きで、レイト先生を紹介してくれた。  
レイト先生（黒木ケーキ店の店長さん）は、とっても美味しい、特別なケーキを作る、すごい先生だけど。  
とっても、恥ずかしがり屋さんなのだ...

☆

まず、チョコレートの、湯煎のやりかたを習った。  
けっこう大変だったけど、とっても面白かった。

なにより、これが出来上がったら、食べられる！

...と、今日も家で夕飯を食べない覚悟の美宇は、  
特別に...  
楽しみにしていた。

☆

融けたチョコの沼に、市販のコッペパンをくぐらせた。

おもしろいぐらいどろどろに、くっついて染まって固まった。  
指やトングについたやつは、みんな争って舐めた。

甘くて、美味し〜い♪

美宇の気分も、甘くなって、明るくなった。

☆

「はい。次は、ホイップクリームの泡立てかたをやりまーす♡」

...え？

☆

「よく見ててね〜！」

レイト先生が、ボウルに白くて美味しそうな何かを入れて、なにか特別っぽい、  
特別な...  
泡だて器で。

するするする〜...っと！

魔法のように！

なにか...

特別な、なにか...！

...を、創った...！！！！！！！！

☆

「...それ！ それですッ！

白くて！ ふわふあでッ！

...特別のッ...！！！！！！♡ッ」

美宇は、叫んだ。

☆

「そのの、...なまえッ！

教えて...ッ！！！！！！」

大絶叫して、泣きながら聞いて来る美宇に。  
レイト先生はびびりまくっていたけれども。

チョコ先生が、『何だか全然わからないけど、何だかとてもよく解ったわ。』  
という顔をして。

そっと、紙に書いて、渡してくれた。

「ホイップ・クリーム」。

☆

とくべつな、

ねこの、名前は！

「ホイップ！」

元気で、白くて、ふわふわで。

ちょっと毛先が丸まってて、  
もしやもしやで...

美味しそうで！

可愛くて！

特別な！

「命名！『ホイップ・クリーム』！...姫！」

「...『姫』が付くのか～w」

お父さんに、笑われたけれども。

いいんだ。

だって、特別な...

特別な、

猫なんだから。

『 純白の、なまえ。』 (投稿用)

『 純白の、なまえ。』(1)

霧樹里守 (きりぎ・りす) 2019年12月08日

☆

なまえは、うんと、特別でなきゃ！  
だって！ 特別な、猫なんだから！

もちろん美宇 (みう) は、そう考えた。  
だって本当の本当に、待ちに待って来た、

...来てくれた...

ネコなのだ！

☆

そのネコは、カゴから出るなり、

「...み～う！」

...と、鳴いた！

美宇を呼んでくれた！

「...ね？ だからこのコにしたのよ～。ミウ、って鳴くんですもの？」  
撫で撫でしながら、お母さんがそのコを美宇に、ハイとさしだした。

☆

「みーう！」と鳴いて、よじりよじりと、小さなツメと手足で...

誕生日の、特別な、  
美宇のピンクの新品のカーディガンを、少しほつれさせてしまいながら...

よじよじと、肩までがんばって昇ってきて...  
座って！

美宇の耳をくんくんして、カジカジして。  
それからあくびをしながら...

「みーう！」と。

もう一度、鳴いた。

☆

「...み〜う！」

美宇はもう本当に一瞬で、夢中になった。

誕生日のネコだ！

特別な、美宇の...  
美宇だけの、ネコなのだ！

☆

そのネコは、真っ白だった。

小さくて、本当にまだ小さくて、  
でもツメもキバもちゃんと小さいのが生えそろっていて。

まるでオモチャのミニチュアみたいで、  
でも本当に生きてて、

動いて、  
食べて、

...鳴く！

「み～う！」

☆

美宇が主役のはずの誕生日パーティーは、もうすっかりネコが主役で大騒ぎになってしまったが、もうそんなことは、どうでも良かった。

美宇は大喜びだった。  
妹ができたみたいだった。  
うんと素適な名前を、考えなくちゃ...

だって、こんなにすてきな、特別な...

特別な、ネコなんだから！

☆

ところが。

次の朝、気がつくと...  
お母さんが。

勝手に「シロちゃん、ごあんよ～？」とか...、  
呼んでる！

「シロじゃないから！」

「あら？ じゃあ名前、どうするの？」

「いま考え中！」

☆

気がついたら、お父さんが。

「おー。ホワイトたん。来たのか！」

「ホワイト違うから！」

「いいじゃないかー。白いんだから。」

「だめ！」

☆

さらには、弟が。

「白いんだから、ユキだよね？」

「だめ！」

だめだめ！ 全然だめ！

そんな、平凡な、名前ッ！

☆

おばあちゃん案。

「スノウちゃん！」

「ダメ！」

おじいちゃん案。

「うーん。じゃあ、ミルクちゃん。」

「もっとダメ！」

美宇は、ちょっと、泣きそうになってきた...

もしかして、美宇の名前も、こんなふうになんか...  
安直〜に。  
決められちゃったのかしら...??

☆

とにかく、なまえは... 特別！

特別な... 愛情の... こもった...

一生懸命、選んだ...

一生ものの、大事な...

特別な、名前でなくちゃ！

☆

だけど。

美宇のコダワリは...

わかって、もらえなかった。

☆

「あら、だってもう一週間よ？  
いつまで名無しのオニギリちゃんなの〜？

可哀想に！」

伯母さんにまで言われた！

「なによそのオニギリって！？」

「あらだって白くて丸くて美味しそう。

だから？」

「...だめ！絶対だめ！変な名前と呼ばないでッ！！！！！」

美宇は、叫んだ。

もう、涙目で、大絶叫した。

「おばさんなんか、嫌いッ！帰って！もう来ないでえッ！！！！！！！」

☆

泣きながら叩いて、殴って蹴とばして、

ものすごい勢いで哭いて...

追い返してしまった。

さすがに夜、お父さんに、怒られた。

「罰として、ごはん抜き。」

「...いいもん...勝手にオニギリにされるより、マシだもん...」

泣きながら、名前のまだ決まらない特別な子猫を...

抱きしめて、眠った。

☆

クラスの女子案。

シロ？

ユキ？

だめだってば。

ホワイト？

だめだめ！

スノウ？

ミルク？

簡単すぎるでしょ！

じゃあねえ...

ユリちゃん！

リリーちゃん？

スズランちゃん！

...う～ん...

シュガーは？

サトウは？

カクザトウは？

...だめーっ！

白雪姫は...？

じゃあ、エルザ！

アナ！

...ち～が～う～ッ！！！！！！（涙目で絶叫。）

☆

...だめもとで...

クラスの男子案。

白飯？  
オニギリ？  
塩！

...酷いッ！

白いんだろ？ 食パン！  
白パン！  
白パンツ！

やめて！

パンツ！パンツ！それいい！

おまえんちのネコ、ば～ん～つ～！

(往復平手打ち。+男子五人を相手に大乱闘。)

☆

誰がなんと言っても、美宇は抵抗した。

勝手な名前と呼んでるやつがいれば、跳んで行ってキックした。

「美宇ちゃんっ！いつからそんな乱暴なコになったのッ？」  
お母さんが怒った。

だって言っても聞いてくれないんだもん。  
実力行使するしかないもん！

「もう～。こんなことになるなら、シロちゃん、貰って来るんじゃないわ...??」  
「酷いッ！」

美宇は、ハンストを、始めた。  
家で、ご飯を、食べるのやめた。

いいもん。

お昼の給食だけだって。

死なないもん...ッ！

☆

美宇は猫をぎゅっどぎゅっど！  
(潰さないように！ 大事に！ そっと！)

抱きしめた。

特別な、美宇の、誕生日の... 猫なんだから！

うんと、特別な、なまえを...

あたしが！

考えて...

あげなくちゃ！

☆

...だけど哀しいかな、どれだけ考えても、辞書を引いても、  
百科事典をめくりたおしても、  
図書館に通っても...

ぴったりの名前は、美宇にも、浮かんでこないのだった...

☆

おなかが、空いた...

ハンスト三日目にして、美宇は、絶望的な、気持ちになった...

☆

家庭科実習だった。

地域の本当のお店の人たちとかが、実習の先生に来てくれる、回だった。  
黒木ケーキ店の番だった。

店長のレイトさんと、奥さんで、ドレス屋さんの、チョコさんが。  
にこにこして、お揃いのエプロンつけて。  
調理室に、来てくれた。

「今日は～。おうちで簡単に、市販のパンで作れる～、  
『なんちゃってエクレーもどき？』の作り方を、レイト先生から習いまーす？」

チョコさんが、ハート付きで、レイト先生を紹介してくれた。  
レイト先生（黒木ケーキ店の店長さん）は、とっても美味しい、特別なケーキを作る、すごい先生だけど。  
とっても、恥ずかしがり屋さんなのだ...

☆

まず、チョコレートの、湯煎のやりかたを習った。  
けっこう大変だったけど、とっても面白かった。

なにより、これが出来上がったら、食べられる！

...と、今日も家で夕飯を食べない覚悟の美宇は、  
特別に...  
楽しみにしていた。

☆

融けたチョコの沼に、市販のコッペパンをくぐらせた。

おもしろいぐらいどろどろに、くっついて染まって固まった。  
指やトングについたやつは、みんな争って舐めた。

甘くて、美味し〜い♪

美宇の気分も、甘くなって、明るくなった。

☆

「はい。次は、ホイップクリームの泡立てかたをやりまーす？」

...え？

☆

「よく見ててね〜！」

レイト先生が、ボウルに白くて美味しそうな何かを入れて、なにか特別っぽい、  
特別な...  
泡だて器で。

するするする〜...っと！

魔法のように！

なにか...

特別な、なにか...！

...を、創った...！！！！！！！！

☆

「...それ！ それですッ！

白くて！ ふわふあでッ！

...特別のッ...！！！！！！？ッ」

美宇は、叫んだ。

☆

「そのの、...なまえッ！

教えて...ッ！！！！！！！！」

大絶叫して、泣きながら聞いて来る美宇に。  
レイト先生はびびりまくっていたけれども。

チョコ先生が、『何だか全然わからないけど、何だかとてもよく解ったわ。』  
という顔をして。

そっと、紙に書いて、渡してくれた。

「ホイップ・クリーム」。

☆

とくべつな、

ねこの、名前は！

「ホイップ！」

元気で、白くて、ふわふわで。

ちょっと毛先が丸まってて、  
もしやもしやで...

美味しそうで！

可愛くて！

特別な！

「命名！『ホイップ・クリーム』！...姫！」

「...『姫』が付くのか～w」

お父さんに、笑われたけれども。

いいんだ。

だって、特別な...

特別な、

猫なんだから。

(2019年12月8日) (そのまま出しちゃえ♪)

<https://85358.diarynote.jp/201912081210338028/>

#

2019年12月8日

When the Promised Flower Blooms | Maquia: Viator

「さよならの朝に約束の花をかざろう」

↑

(結局まだ観てない★)

=====

(承前)

さらに。

...こんな黒歴史(闇記憶)をうっかり発掘しちゃった後で...

↓

> みなと @minatobjective ù 12時間12時間前

>

> チャンスって、就業機会だけじゃないんだよね。そもそも教育って時点でチャンスを与えられない女性が多い。高校まで男女の学習機会は平等だが、大学以降で差ができるとどっかで読んだ。特に地方では優秀であっても娘を都市部の大学に行かせない家庭はまだ多い。

>

> 留学行きたいと必死で頼み込んでも留学費を出してくれない親が、弟にはポンと出したという話も見たな。

> 学歴社会で学習機会を奪われることは就業機会を奪われることにも等しい。

>

> ↑  
>  
> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2  
> 返信先: @minatobjective さん  
>  
> 父親に言われました。  
>  
> 『おまえは女だから、大学なんか行かなくてもいい、働け。どうしてもと言うなら、数学をきちんと勉強して、国公立にストレートで入ってみせろ。』  
>  
> 家出して、新聞奨学生で学費を稼ごうとしましたが、体を壊して挫折。  
>  
>  
> 私よりずっと成績が悪く、就職率すら低い底辺高校にしか入れなかった弟に  
>  
> 父親が言いました。  
>  
> 『おまえは男なんだから、大学ぐらいでておけ。二浪してでも、三流の私立でも、とにかく大学に行け。』  
>  
> 何故、そのカネがあるなら、私に貸してくれなかったの...??  
> <https://twitter.com/MasakoTsuchiya2/status/1203500165828448256>  
>  
> ↑  
> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 · 21 分 21 分前  
> 返信先: @MasakoTsuchiya2 さん、@minatobjective さん  
>  
> (ちなみにそれ言われたのが、高校三年生二学期の終了時の成績表を見せた時ですからね。  
> 完全に私立文系で履修組んでて、数学は赤点すれすれだったのに！)

↑ちなみにその頃から「小説家になる！」しか考えてなくて、  
無謀にも (^\_^ ;)

「栗本薫の母校！早稲田大学文学部」単願！？でした...w

一応受けたけど、解答欄がぜんぜん埋まらなかったわ！wwwwww

=====

> 自分がリツイート

> 九郎政宗 @claw2003 ù 18 時間 18 時間前  
> 返信先: @takayanagiASMR さん、@ExileinBeanTown さん、@bobby\\_\\_muntan さん  
>  
> ▼【# ゴタクのガイドライン】  
>  
> \# 無理な人「レイピズムは社会悪  
> と思う人達たくさんいますけど、最初からレイピズムを拒否するからレイプ犯と理解  
しあうことができない  
> 理解しあおうともせず、最初から拒否したら、個人の考え方を尊重していないという  
ことに」  
> 文明人「いやレイプは犯罪だよね常考」  
>  
> ↑  
> 《歌いながら大地を歩く》霧樹里守 @MasakoTsuchiya2 ù 53 分 53 分前  
> 返信先: @claw2003 さん、@takayanagiASMR さん、他 2 人  
>  
> レイプ犯と解りあえちゃう人って、  
> つまり『自分もレイプしたい願望がある人』ですよ？  
>  
> ちなみに昔、私が派遣先の職場で、『あまりにも通勤電車で痴漢が多過ぎるので、ここ  
の会社を辞めるか、片道 2 時間歩いて通うかで悩んでいる』と  
> 同性の先輩に愚痴っていたところ、  
>  
> 『えっ▲ さん、よく痴漢に遇うの？ 羨ましい！  
> やっぱり痴漢に遇うのって楽しい？  
> いいなあ、羨ましいなあ！  
> 男のら、一度はやりたい痴漢！』と、  
> 叫びながら無理やり会話に乱入してきた上司が...  
> (° ° ;)(° □ °)( t ; ; ∇ ; ;)(# · ∇ · )  
>  
> 問答無用で、アタマから水、ぶっかけました。  
> <https://twitter.com/claw2003/status/1203230121500520448>

=====

↑

ふわっふわっで、キレイごとで、非現実世界の小腸の...もとい、  
象徴のような、「少女小説」を、

書くのはアタマの切り換えが辛いものがあるんですが...(^^;)...★

↓

<https://85358.diarynote.jp/201912012045267321/>

> 「夢と妄想のキラキラ少女小説」が

> <http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-apply/>

> 応募原稿 400 字詰め原稿用紙 25～30 枚。

> 2019 年 12 月 10 日※当日消印有効

今回分に応募するなら、もう今日が最終チャンス！ なので...

とりあえず、プロットと草稿だけでも、書いてきます...☆

(関連商品)

### コメント

2019 年 12 月 8 日 13:08

書けちゃった♪

すごいで私♪

(しばらく放置して、夜に詠み返して、良ければそのまま出しちゃえ♪)



(2019年12月8日)

<https://85358.diarynote.jp/201912081644191228/>

#

2019年12月8日

<https://www.youtube.com/watch?v=EP43ngBb0-A>

Violet Evergarden | Finest Tearful Compilation 「ヴァイオレットエヴァーガーデン」

Finest Tearful Compilation

> 短編小説新人賞 デジタル応募フォーム 投稿完了

>

> ご応募ありがとうございます。WEB投稿が完了しました。

> <http://cobalt.shueisha.co.jp/write/newface-award-apply/>

ひみつ日記下記受付番号はお問合せの際など必要になりますので、必ずお控えください。

<https://www.shueisha-hpl.jp/shunovel-award/TD0000/complete>

受付番号

TD000005757

(関連商品)

### コメント

2019年12月8日 18:11

06853  
...88...☆

2019年12月8日 18:59

0685  
...399...☆

2019年12月8日 19:56

6月末分まで「ツイッター落穂拾い」も予定完遂。

まあ自分でツイッターに書こうと思ってた雑文いくつかを書く気力と時間がなくなったけど...

「原稿は書けた！」（投稿ボタンも押した！）ので、

今週「やや勝ち越し♪」にて、終わりッ！

---

『 純白の、なまえ。』

---

著 者 書籍情報の編集ページから、著者情報を入力してください

制 作 Puboo  
発行所 デザインエッグ株式会社

---